

これは大阪湾「夢洲」に生きるものたちからのメッセージです

2025関西万博

夢洲の生物多様性を未来に

40年前から埋め立てられ始めた大阪湾の人工島「夢洲」では、次第に埋め立てられていく土地に草が生え、昆虫が棲み、鳥が集い、多様な生態系が生まれてきていました。この生物多様性豊かな環境は、大阪に偶然できた「たからもの」です。

しかし、現在、2025年万博のために急速に開発が進む夢洲。ここで生きるものたちはどこにいけばいいのでしょうか？

現在絶滅危惧が高まっている夢洲の生きものたちのほとんどは、埋め立てが行われている万博予定地の池・湿地・ヨシ原で生息していますが、半年のイベントのために、今、いのちの未来を奪われようとしています。



コアシサシ

環境省絶滅危惧Ⅱ類(VU)指定。夢洲の砂礫地で集団繁殖。渡りの前には夢洲の塩性湿地に3000羽を超す大集合が見られた。

ホシハジロ

国際自然保護連合で絶滅危惧Ⅱ類(VU)指定。2019年、2020年夢洲の雨水池に5000羽近くが滞在。これは全国2位(本州1位)で、ラムサール条約湿地に匹敵するレベル。

ツクシガモ

環境省絶滅危惧Ⅱ類(VU)指定。夢洲は100羽を超す飛来数で、本州最大の飛来地となっている。

セイタカシギ

2区湿地で複数ペアの繁殖が確認された。

夢洲の植物

植物調査 8回  
在来植物 82種 逸出(園芸)13種  
外来植物 111種(特定外来生物3種)

夢洲には、現在全国的に激減している塩性湿地が潮風の影響などでできています。そこには、絶滅に瀕している海浜植物が突然現れたりします。大阪ではすでに絶滅したと考えられていた水草「カワツルモ」が発見されました。外来植物も多いですが、「なにわ」の原風景である広大なヨシ原もできています。※これらの写真はすべて大阪での絶滅が危惧されている在来の海浜性植物たちです。



ハマゴウ



ハマボウ



ツルナ



ヒトモススキ

夢洲の昆虫

昆虫調査 8回  
確認昆虫種 104種

私たちの年数回の調査では、とりわけ希少な昆虫は確認していません。ですが、トンボやバッタは非常に多く、外来種や一時飛来種も含め、多様な種類が夢洲に存在しています。



シオカラトンボ




ギンヤンマ

この夢洲の多くの命を支えているのは、塩性湿地とヨシ原の存在です。これらがあればこそその「生物多様性のホットスポット」です。しかし、現在、それらは万博会場整備のための埋め立てで消失の危機に瀕しています。私たちは、現在の塩性湿地とそれに続くヨシ原を、万博の「自然再生エリア」として活用することを提案いたします。


大阪湾沿岸の自然は、近世から現代にわたり失われ続けてきました。その自然はわずかですが、この夢洲で再生し、このように命あふれる生物多様性のホットスポットになりました。この事実が、SDGsへの取り組みを掲げている2025年万博にとって、象徴ともなりえる大きなチャンスです。

世界では気候変動への対応、たとえば「劣化した生態系の少なくとも20%を再生・復元する」という目標が掲げられようとしています。その中で、失われた環境の再生と保全、さらに充実した自然再生エリアとして未来へつなげていく行動、それこそが環境への取り組みの最先端として万博にふさわしいものではないでしょうか。

※ 詳細は当協会HPIにてご覧ください。



【夢洲Photo Album #4 夢洲の生物多様性を未来へ】  
編集：公益社団法人 大阪自然環境保全協会  
発行：NPO地域づくり工房  
2021年11月25日 3000部  
連絡先：06-6242-8720 office@nature.or.jp



2021年度環境再生保全機構地球環境基金の助成で作成しています。

カワツルモ



これは私たちが3年間夢洲に調査に行ったときの記録で、写真はすべて夢洲で撮影しました。調査についての詳しいことは大阪自然環境保全協会のホームページをご覧ください。



# 夢洲にいる注目すべき野鳥たち

夢洲にはさまざまな自然環境が生まれています。そして、その環境に応じた生きものたちが集まり、多様な生態系を創っています。私たちの3年間の調査で、鳥類113種。レッドリスト(絶滅の恐れのある生物のリスト)掲載種だけでも、51種見つかっています。ここには、そのうち写真が撮影できた48種を掲載しました。

夢洲は、シギ・チドリ・カモなど渡りをする野鳥にとって、サービスエリアともいえる場所。何千キロもの旅の途中で立ち寄り、翼を休め、ゆっくり栄養と休息をとる場所です。猛禽類にとっては、狩りの場所。また、コアジサシやセイタカシギ、小鳥たちにとっては、繁殖と子育ての場所になります。この豊かな環境がなくなれば、どの鳥も数を減らさざるを得なくなります。



これらの生きものはおもに夢洲2区の池・湿地・ヨシ原にいます。ここは今、万博建設のために埋め立てられようとしています



ほかに絶滅が危惧されている種として、キリアイ、オオセグロカモメ、カシラダカもいました。掲載されている写真はすべて、大阪自然環境保全協会がこの期間、夢洲で実際に撮影したものです。